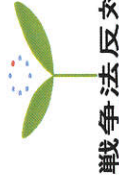




〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2
 日港福会館 5階
 Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622
 メール rouren@kensu.jp
 ホームページ http://www.kensu.jp/
**全国検査労働組合連合
 書記局**



STOP! 戦争する国づくり



平和と港湾労働者の命と安全を守る特別決議

私たちは、平和な暮らしと、安心して港で働き続けるために努力してきました。しかし、安倍政権は、これまで以上に港湾の軍事利用を拡大させ、私たちの安心・安全への願いを否定しようとしている。

安倍政権は、昨年9月に憲法違反・戦争する国づくりに反対する多くの市民や労働者の声に耳を傾けることなく、安保法制（戦争法）を強行採決した。そして、いよいよ本年11月には、今も戦争状態にある南スーダンへのPKO派遣部隊の交代時期に合わせて「駆けつけ警護」で武器使用も可能とする部隊の派遣準備のために実践訓練に入ったとされている。大震災や災害に日夜努力する自衛隊員を事実上の戦場に送り込むようとしているのである。

一方、港湾の現場においても、戦争への準備を実感せざるを得ない事態が進行している。本年8月に自衛官と米軍の共同訓練の環として米軍がチャーターした輸送船が名古屋港に寄港し装甲車や燃料輸送車の荷役がおこなわれた。

これは、米兵と自衛隊員の合計1,350人が実弾射撃を交えた防衛から攻撃に転ずる部隊の連携訓練に必要な物資であると報じられ、文字通り私たちの職場である商港が実践訓練に利用される初めてのケースである。

これは、憲法違反の安保法制（戦争法制）によって、私たちが職場である港湾が、実弾射撃も含めて訓練の兵站基地として機能していくように変わっていく顕著な事例であり、私たち自身が基地に身を置くことの危険や不安を想起させられる事態が進行しているのである。

私たちは、沖繩の仲間から、基地と併存する港湾であるがゆえに、日常的に精神的な苦痛を強いられている現実を教えられ、もう限界だと叫ぶ沖繩の声を自らの痛みとしてこれに寄り添い、平和を希求する日本国憲法を守る抜くために「辺野古新基地建設反対」を決議し、そのための行動も組織してきた。

この取り組みの経験によって、私たちは、沖繩はもちろん、全国の港湾においても、あらためて、平和な港で安心して働きたいという率直な願いを実現するために、憲法を活かすこと、平和のために日常的にたたかうこと、多くの仲間とたたかうことの重要性を再認識してきた。

したがって、安倍政権が、戦争への道、平和を破壊する道に突き進んでいることに強く抗議し、沖繩の現実から学び、港湾の軍事利用の危険性を憂慮し、平和な暮らしと職場を守るために、多くの市民・国民・労働者と連帯し、たたかうことを決議する

2016年9月15日

全国港湾労働組合連合会第9回定期大会

全国港湾は、第9回定期大会において検査労連・尾崎代議員（名古屋）からの「港湾労働者の命と安全を守る特別決議の採択を」との提起を受け、大会後に開催した中央執行委員会で特別決議を発表していくことを全体で確認しました。

守るべきは平和な港である

大会で尾崎代議員は「今年度は、安倍政権による憲法改憲等に向けた動きがますます加速していくことが予測される。全国港湾として安倍暴走政治を阻止し、「平和な港」と「港湾労働者の生活と暮らしを守る」運動に全力をあげて取り組みをすすめていかなければならないと思う。ついでには「われわれが守るべきは、平和な港である」という信念のもと、本定期大会での「平和決議」の採択をお願いするものである」との力強い提起をしました。

戦争法廃止 改憲策動を許さない

16 原水禁世界大会 長崎平和行動に参加

原子爆弾投下そして戦後71年目の今年、8月7日（9日、長崎市において原水禁世界大会が開催されました。全国から1,800人が参加し、検査労連・日検九州も青年部を中心に5人が参加しました。

世界大会では「核も戦争もない21世紀、憲法の平和主義を実現するために安倍政権がすすめる戦争への道にひた走る動きに断固反対する」旨の大会宣言が満場一致で確認されました。

オレたちは「微力だけど無力」じゃない

大会初日は全体集会、原爆資料館めぐり、当時の悲惨さと核の怖さを学びました。

二日目は、「平和と核軍縮」などの分科会に参加しました。

平和行動を終えて「来年も多く参加を求めるとともに平和の尊さを微力ながら訴えていく」との決意を参加者全員で確認しました。



戦争法・辺野古新基地建設に反対する産別の取り組み（要旨）

- ◎ 港運事業者団体に対し「業務従事命令の対象事業」として動員される危険性をアピールし、労使双方が戦争協力者とならぬよう態度表明する。
- ◎ なぜ、港湾産別として「戦争法」に反対するのかを明確にし、港湾関係者に対し申し入れ活動を行う。
- ◎ 軍貨荷役の強行作業には、港湾産別の特性を生かした「抗議行動」を検討し実施する。
- ◎ 港湾産別として辺野古新基地建設現場に「激励・連帯訪問団」を派遣する。
- ◎ 翁長沖繩県政の下で新基地建設反対運動に寄与し、港湾産別として、埋め立て資材・土砂の積み出し荷役作業など可能な限り阻止行動を検討し、具体化する。